

事業紹介・事業報告

「第25回技術研究発表会」の報告



沼尻恵子

情報・企画部
上席主任研究員

1. 開催概要

平成23年7月13日（水）に、第25回となる技術研究発表会を、東京都港区ニッショーホールにおいて開催した。以下にその概要を報告する。

1.1 開催の概要

技術研究発表会は、JICEの公益事業の一環として、調査・研究の成果を広く一般の方々へ紹介することを目的として実施している。

発表プログラムは、次頁の通りであり、特別講演やJICEの研究課題について発表を行った。

当日は、国や地方公共団体、公益法人、民間会社等から延べ約530名の参加を得た。

1.2 特別講演及び発表課題

特別講演は、TRON（トロン）の設計者として知られるYRP ユビキタス・ネットワークング研究所所長を兼任している東京大学大学院の坂村健教授をお招きして、『復興とユビキタス』と題して行って頂いた。



写真1 JICEの事業概要の報告

講演では、災害に対して、ユビキタス・コンピューティングや情報通信技術を使った研究や対策がなかったわけではないのに、そうした研究成果が生かせなかったのはなぜか、日本は今まで平時と有事の2モードで対応するという考え方が欠けており、有事の体制整備を平時から考えてお

くことが大事である等、示唆に富むお話を頂いた。詳細は本JICE REPORTの巻頭に掲載しているのので、是非ご一読頂きたい。

JICE職員が発表した10課題では、自主研究による先進的な成果や、JICEが受託した調査研究成果をもとに独自の視点を取り入れた課題について発表を行った。「道の駅の機能に関する研究」では、身近な施設である道の駅の事例などを紹介しつつ、東日本大震災では、広い駐車スペースを利用した災害応援の活動拠点や防災拠点として機能していた等、タイムリーな内容についても報告がなされた。



写真2 JICE職員 発表の様子

これら発表課題に関する論文は、JICEのホームページ「講習会・報告会等」にアップし、またいくつかは本JICE REPORTに掲載しているのので、ご参照頂きたい。

次回第26回技術研究発表会は、平成24年7月11日（水）ニッショーホールにて予定している。開催の案内、参加の受付等は、ホームページに掲載予定である。

皆様のご来場をお待ちしております。



写真3 会場の様子

2. 第25回技術研究発表会プログラム

挨拶		理事長 大石 久和
JICE 事業概要	JICE の事業概要について	理 事 藤本 保
特別講演	「震災復興とユビキタス」	東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授 坂村 健 氏
新たな治水計画の展開に関する考察	気候変化を前提とした今後の治水対策を考えるためには、起こりうる可能性のある洪水全てを対象とし、被害最小化を目的とした治水計画の考え方が必要である。本発表では、気候変化を前提とした現在の治水計画立案の問題点、新たな治水計画の在り方・枠組みの提案、S川のケーススタディー等を通じて得られた新たな治水計画立案に向けた技術的な手法の提案等について報告する。	河川政策グループ ○岡安 徹也(首席研究員) 湧川 勝己
大規模水害時の広域避難のあり方に関する研究	「大規模水害対策に関する専門調査会」報告(H22.3)では、利根川・江戸川、荒川における大規模水害発生時には、複数の行政区域が長期間水没するため、長期の広域避難計画の策定の必要が指摘されている。本発表では、首都圏大規模水害発生時をケーススタディーに、約230万人の広域避難の考え方や、課題と対策についての研究成果を報告する。	河川政策グループ ○原田 慎(主席研究員) 岡安 徹也 新井 勝明
堤防と道路の一体整備に関する調査研究	河川堤防は洪水防御の根幹施設であるが、洪水に対する所要の安全率を満足しない区間が多く存在し、これらの堤防の効果的効率的整備が求められている。本発表では河川堤防の強化と地域二卒の高い道路整備とを一体的に実施する場合を想定し、整備の優先度、堤防断面構造について検討し、一体整備の効果、課題について検討した成果を報告する。	河川政策グループ ○平野 智(主席研究員) 中山 修
道の駅の機能に関する研究	「道の駅」は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」が備わっている他、近年では、地域の拠点として、防災機能をはじめとする、多様な機能を持った道の駅も存在する。本発表では、道の駅における機能に係る現状及び課題、果たすべき役割に加え、東日本大震災における被災地区周辺の道の駅が果たした機能等について報告する。	道路政策グループ ○秋山 聡(主任研究員)
自転車通行空間の形状と自転車の加減速との関係に関する分析	健康志向の高まり、燃料の高騰などにより、都市部を中心として自転車利用が増加するに伴い、自転車関連交通事故の比率が高まっている。本発表では、7割を占める交差点の事故の削減に向け、自転車専用の通行空間が接続する交差点における自転車の加減速と自転車通行空間の形状との関係分析等を行った成果と自転車速度の適正化に資する交差点設計方法等について報告する。	道路政策グループ ○西見 宣俊(主席研究員) 岸田 真
道路交通円滑化のための課題路線の抽出及び評価手法について	都市部の道路において交通渋滞が慢性化し、道路を利用する公共交通の定時性確保に大きな影響を及ぼしている箇所が存在する。本発表では、特に公共交通の円滑化を図るため、データから得られる交通状況の把握と、バス利用者が感じる渋滞箇所の両面からアプローチを行い、課題路線・箇所を抽出、評価する手法を検討した成果について報告する。	道路政策グループ ○野平 勝(席上主任研究員) 森谷 進也、和田 卓、 上杉 範雄
都市の脆弱性の把握とその対応方策のあり方に関する検討調査	大規模地震やそれに伴う火災延焼を最小限にとどめるよう市街地を適切に区画する延焼遮断帯を形成する都市防災総合推進事業(不燃化促進事業)が大都市を中心に実施されている。本発表では、中小都市の特性を踏まえながら、延焼遮断帯の性能等について再検討するとともに、特に対策を講ずるべき密集市街地にとって効果的な対策のあり方等について報告する。	都市・住宅・地域政策グループ ○朝日向 猛(席上主任研究員) 鈴木 圭一
既存施設のバリアフリー化に係る費用及び技術的課題についての調査研究	バリアフリー法により、一定規模以上の新設の施設におけるバリアフリー化が進んでいる一方で、物理的スペースの確保や付加的な費用といった制約を持つ既存の施設等の改修が困難との指摘がある。本発表では、施設数の多い鉄道駅と既存建築物の改修事例について収集、分析を行い、改修の費用及び技術的課題、対応策や改修の工夫等について検討した成果について報告する。	情報・企画部 ○沼尻 恵子(席上主任研究員) 都市・住宅・地域政策グループ 鈴木 圭一
調査・設計等分野における総合評価落札方式の運用及び関連施策の実施と効果について	調査・設計等分野では価格と品質を総合的に評価する総合評価落札方式を平成20年度より本格運用しているが、本方式でも低入札が発生し、成果品の品質確保に懸念が生じている。本発表では、調査・設計等分野における総合評価落札方式の運用と成果品の品質確保のために実施された施策の効果に関する分析結果について報告する。	技術・調達政策グループ ○小宮 朋弓(席上主任研究員) 坪 義人
アセットマネジメント等の国際標準化の動向について	従来の我が国における国際標準化対応には外圧への対抗という受け身の姿勢が見られた。一方、欧州は国際標準への影響力をますます拡大しており、我が国の国際標準化にも国際市場への進出という積極的な対応が求められている。本発表では、構造物の設計・施工基準や新たにISO規格化が始まったアセットマネジメント規格を例として、最近の国際標準化の動向について報告する。	技術・調達政策グループ ○山田 武正(席上主任研究員)

○発表者

※本プログラムは、土木学会の継続教育(CPD)制度のプログラム認定を受けて実施しました。